

福祉・介護

対馬市立 豊玉中学校三年

松下 義明

私は、「福祉」という言葉には、あまり関心がなかった。なぜなら、福岡にいた頃は、あまり福祉を身近に感じる経験がなかったからだ。しかし、対馬に移住して、一番驚いたことがある。それは「少子高齢化」である。福岡にいた頃は、少子高齢化をあまり感じなかったが対馬に移住してから、少子高齢化が進んでいると実感した。実際に私の近所にもたくさんの高齢者がいらした。

私は、六月に行われた「介護体験シアー」で学習をした。これは、「長崎県長寿社会課」と「対馬市役所保健部長寿介護課」が主催したものである。豊玉園で車いす体験をした。実際に座ってみると、視線が低くなり、少し怖かった。次に車イスを押す体験をした。座っている人に声をかけながら進めることが大変であり、日頃、高齢者の方に「ミニシ

ヨンを取る大切さを知った。その後は、講師の方の講話を聞いた。実際に介護職員が減少していることや高齢化が進んでいることだ。講話を聞いている中、印象に残っている話がある。それは、看取りをされているおじいちゃんの話だ。家族の方と話した結果看取りの方へ進んでいったか、ある職員の方は、「諦めたくない」と言い、おじいちゃんが好きなことを毎日した結果、看取りから解放された。食事、入浴も一人で、出来るようになった。車いすで自分で動けるようになった。おじいちゃんが口癖にしていた言葉は「寒いと感じるのは生きている証拠」と言っており、悔いのない最期を迎えることができた。

現在、日本では、少子高齢化が進んでおり、介護職員が減少している中、共生社会に向けて進んでいる。まず、共生社会をつくる前に高齢者が住みやすい、町づくり、誰でも過ごしやすい町・地域ができれば、共生社会がつくえると私は思う。